



身近なもので社会貢献活動

大崎町商工会女性部の皆さんが、集めたペットボトルのキャップを、社会福祉法人愛生会へ寄付しました。これは、町内で役立つことをしたいと、3年ほど前から同女性部が実施されているもので、役員を中心に声を掛け合い、年に数回寄付しています。同法人はエコキャップ事業に取り組んでおり、町内外から集まったキャップを利用者が手作業で選別した後、粉碎機にかけ、工場に出荷します。キャップはコンクリートパネルなどの製品に加工され、施設利用者の工賃として還元されています。

川崎美喜女性部長は「町民の方のためになることを今後も続けられるだけ続けていきたいです」と話されました。



青少年育成県民会議表彰受賞を報告

青少年育成県民会議において青少年育成団体部門で表彰された大崎町更生保護女性会の皆さんが、6月14日(火)に町長を表敬訪問しました。

同会は、社会を明るくする運動時の学校訪問(雑巾等の贈呈)や「薬物乱用防止キャンペーン」の街頭キャンペーン活動、持留小学校での読み聞かせ活動「更ちゃん(みどり)の会」などが高く評価され、今回の受賞となりました。

西ノ園翠会長は「新たに学校周辺の見守り活動などにも取り組み、更生保護活動をさらに進めていきたいです」と抱負を語られました。



たくさん読んでね 絵本の寄贈



6月13日(月)、おおすみハナマルシェ実行委員会から大崎の子どもたちに絵本の寄贈がおこなわれました。

これは、イベント等を通して大隅の魅力をアピールしている同実行委員会が、大隅の子どもたちに何か残したいと、イベント収益の一部を本にして大隅半島4市5町に5冊ずつ寄贈したものです。

いただいた絵本は町立図書館での貸出しを開始しています。また、毎月第3日曜日に実施される「ふれあいおはなし会」での活用も予定しています。



盲導犬と ふれあいました



6月6日(月)、日本盲導犬協会から盲導犬ユーザーの西島勇一さんと盲導犬のルートが野方小学校を訪れ、5年生に盲導犬についての授業をおこないました。

西島さんは盲導犬の必要性を知ってほしい、身体障害者に優しい心を持って接してほしいと、全国で活動をおこなっており、町内の小学校でも数年前から活動をしています。

児童は盲導犬の仕事や日頃の生活を質問したり、実際に盲導犬が誘導しているところを見たりして、理解を深めました。竹下元就さんは「盲導犬の大変さや大切さを知りました」と話してくれました。